

JEACS

福音讃美歌 ジャーナル

2019.6 vol.27

Japan Evangelical Association
for Congregational Singing

■インタビュー

塩谷達也さん Shioya Tatsuya (ゴスペルシンガー)

那須敬さん Nasu Kei (国際基督教大学 教授 歴史学)

編集部 (E) 那須さんがイギリスで学んだこととか、今度出た本『英国革命と変容する〈宗教〉——異端論争の政治文化史』(岩波書店、2019年)とか見ると、二人ともマイノリティーへの目線をすごく持っている。塩谷さんはアメリカ、那須さんはイギリスに行ったけど、この本を見たとき、那須さんが塩谷さんの歌うゴスペルの伴奏をしている意味は、こんなところにもあるのかなあと思った。

塩谷 (塩) なるほど言われてみればそうかもね。僕は、家庭的にはいろいろな問題を抱えてきたので、自分の生まれ育ちを黒人の歴史に重ねたりして、黒人にシンパシーが持てたんですよ。洋楽の中でもマイノリティーの系譜は結構やりましたね。

E 明るい音楽の方には走らなかったんだ。

塩 走らなかった。高校時代は叫びたいっていうだけのロックで、高3の時にブルースに出会った。ライトニング・ホプキンスというデルタブルースの人。そこで人生が転換したんですよ。黒人霊歌と出会ったのは大学の時、敬が持ってきたんですよ。

E 那須さんが持ってきたの!?

塩 そう、ボクはブルースから入って、初めゴスペルの世界に入り込めなかった。バンドじゃなかったし、クワイヤとかピアノと歌のスタイルがカッコいいと思えなかったんですね。でも、よく見ると、黒人霊歌と初期のブルースは音楽の形とかほぼ被ってて、街角で唸ってみたいいな感じだから、言ってる内容が違うだけなんです。最初、ボクも高校の時は弾き語りのコアなところから入って、バンド系のものは大学に来てやっ

CONTENTS

	Page
・インタビュー 塩谷達也・那須敬	1
・編集作業の道のり 第12回 中山信児	5
・CD『HYMNS LIVE』Shane & Shane	6

たんですよ。

E 那須さんがゴスペルに出会った切っ掛けは何だったの。

那須(那) 両親がマヘリヤ・ジャクソン好きで、赤ん坊の時からレコードを聴かされてました。昔の密閉型のヘッドホンをかけられて、レコードが流れてる間は静かで、A面が終わると僕が合図して、親がレコード盤をひっくり返してくれる、という。幼稚園の時にピアノを習い始めて、小中高とクラシックやって、反抗期に洋楽聴くようになって、高校で自分のキーボード買って、バンドで80年代のブリティッシュ、アメリカンロックと、あとビックバンドのピアノ。そこでジャズに触れた。大学では、もうロックでやることはないと思ったから、ブルースとかソウルなどの黒人音楽をやるサークルに入ったら、塩谷がいた。セッションになって、一緒にブルースをやっているうちに、ゴスペルとかスピリチュアルの話になって、子どものころ聴いていたゴスペルのことを思い出したんだね。

塩 そうだったんだ。僕も触発してるわけだ。

那 もちろん。それでマヘリヤ・ジャクソン引っ張り出してきて「これ聴いてよ」みたいになって。

E それを聴いたときはずっと入れたの。

塩 聴いたというか、いきなり部室で演ったですよ。Nobody knows と、Deep River もかな。

那 あと Amazing Grace。でもヘンドリックスのCD持ってきたのは塩谷だと思う。

塩 そう、バーバラ・ヘンドリックスとドミトリー・アレクセーエフというロシア人の黒人霊歌のCDをショップで見つけて聴いたら感動したんですよ。クラシックスタイルのアレンジなのに、奴隷たちが血と汗を流してむち打たれて、神に献げた黒人霊歌の輪郭がビビッドに入ってきたんです。生々しさとかだったらライトニング・ホプキンスとかの方が出るんだけど、クラシックのスタイルと最高の演奏技術でやったことで、かえって歴史の輪郭とかエッセンスが表れてきたんですよ。

E それでようやく分かった。最初に二人に会ったとき、このCDを勧められたんですよ。聴いたら、すごくクールで、何でこれだったんだろうってずっと引っ掛かってたけど、今、分かった。私もいろんな黒人霊歌の音源聴いてると、無性にヘンドリックスが聴きたくなることがあって、ここに戻ると納得して安心して他のも聴けるようなところがある。

塩 その気持ちわかりますね。敬も、これ聴いてドミトリー・アレクセーエフって何者だってなったんだよね。

那 一生懸命聴いてコピーしたね。でも、この二人はどこで出会ったんだろうね。

塩 多分、彼女がヨーロッパで勉強した時だと思う。みんな黒人教会から出てきて黒人霊歌を歌うんだけど、初期の頃に認められたのは、勉強ができてクラシカルスタイルを学んだ少数の黒人だけで、そういう人たちがヨーロッパツアーとかに行行って認められる。そこには自分たちの文化じゃないスタイルでやったことが評価されていく孤独感とかがあって、それは他の黒人たちには理解できない。凱旋したときはエリートとして迎えるけど、彼らの言う「私たち」の中には入れない。

フィスク・ジュビリー・シンガーズって言うグループがあって、それはフィスク大学っていう最初の黒人大学から始まるんだけど、優秀な人たちを海外ツアーに行かせてお金を集めさせて、そうして黒人の教育機関を作っていったんです。ファンドレイジングですよ。

映画の「グリーンブック」でも、黒人の方はエリートで、ヨーロッパでクラシックピアノ習って戻ってきて、黒人だけど白人が喜んで聴いているって状態で、他の黒人からは理解不能だから、凄い孤独を演じてたでしょ。ああいう人が極希にいて、黒人の地位を高める重要な礎になったんだけど、コミュニティの中では本当に孤独だったと思うんですよ。





黒人教会の歴史は特別なもので、差別と迫害の中で、信仰を育てていった彼らの生き様は、人が本当に追い込まれた時に何をもって生きようとするのかっていうのを民族レベルで立て上げてきたわけですよ。キリストに頼ったときに、あれほどの叫びが出るっていうの

は、今の僕らクリスチャンにとっても宝だと思うんです。それはジーザスが一番よく知ってるんじゃないかな。「なぜお前たちがこんなに叫ぶのか」ってことも。「なぜ神が、ああゆうことを許されたのか」っていうことも含めてキリストの方に行くことが、矛盾しながらも一番グレースフルなことなんだろうって思う。

那 そして、それは別に黒人霊歌じゃなくても良い。

塩 そうそう、スタイルの問題じゃない。ある状況の中で生きた人が、こういうスピリチュアルズを紡いできたことがスゴイなあって思うから。

E じゃあ、二人にとっての黒人霊歌ってどういうものなんだろう。

那 僕は、大学に入って塩谷に出会って、この人にゴスペル歌わしたらスゴいことになるぞ、と思ったからやったわけで、自分にとって黒人霊歌が大事だったからやったんじゃないんです。

塩 要は、すごくパーソナルなことで、僕はブルースや黒人音楽が好きで、そこに敬が黒人霊歌を持ってきて、それで僕がすごく強いものを受けた。だから、敬と黒人霊歌をやるっていうのは、すごく大切なことなんです。黒人霊歌を歌ったときに流れる、聖霊とか霊的なものがあるんですよ。歌ったときのその感覚をシンガーは大切にしていって、それが無かったらそれなりの歌しか歌えないんですよ。

那 そう、その感覚があるなら、クラシックでもバツハでもいいの。勤めてる大学でオルガン講座があって、3年間レッスンを受けたんだけど、ピアノしか弾いてこなかった人には大変ですよ足鍵盤(笑)。新しい神経をゼロから育てないといけない。いま自分の教会では聖歌隊指導もやってるけど、ゴスペルはやってないんです。聖歌隊といっても、年齢はまちまちで、パートのバランスも悪い、音楽の経験もさまざま、そんな人たちに合わせて、いろいろ考えながらスコアを書き直すんです。僕はそれもゴスペルだと思っています。前に塩谷と同じ教会で聖歌隊の練習のときに、塩谷が「この教会の日曜礼拝の会衆讃美、普通に昔からある讃美歌をみんなで歌ってるのが一番好きだ」って言うんですよ。「何の飾りも特別な技術もないけど、心を一つに合わせて歌っていく。これはゴスペルだと思う。それをやれば良いんだ」って言った。要するに教会に集まった人々が、おじいちゃんやおばあちゃんも、補聴器付けた人や楽譜読めない人も、うまくできないとか恥ずかしいとか思わないで、心の底から「その通りだ」と思いながら歌えるっていうこと、それがゴスペルだと思うんですよ。それができるのなら、曲のルーツは何でもよくて、僕はゴスペルが好きだけど、別にアメリカの黒人霊歌である必要は無いんです。

E それはこの二人のマッチングでも、同じことを望んでる。

那 塩谷とやるときはゴスペルだったけど、今の教会にそういう人いないから、マヘリヤやろうって言ってもダメなんです。それやっちゃうと、教会音楽が悩みの種になっちゃう。とは言え、奏楽者や音楽指導をやる人には



ある程度音楽的なポケットがないといけないし、その幅は広ければ広いほどよくて、そう意味で僕はオルガンを習ってみてすごく良かったと思うんです。ポケットが一つ増えたから。おなじようにクラシックの人も、他のジャンルの勉強をした方がいいと思う。

塩 それは僕も思う。僕はクラシカルな所は分からないけど、コンテンポラリー音楽に関しては幅とポケットを持とうと思って広くやってきたんだよね。今はユースの働き結構やってるんで、若い子たちのことを言うと、彼らも、やりたいことを理解して、幅を持って導いてくれるリーダーなり先生なりがいれば立たされていけると思うんだけど、いろいろ見ると「うちはずっとこれでやってきたから」という話が割と多いですよ。

E 那須さんの指導する聖歌隊も一度聴いてみたいけど、そういうのはポケットがあるからできるのかな。

那 あるからできたというより、僕は今の教会の人たちと出会うまでは、指揮も四声の合唱アレンジもできなかった。この教会の人たちと、どんな讃美をしよう？って考えながらスコアを作っていくうちに、鍛えられたんだと思います。

塩 そう考えると、僕がやってるゴスペルは、逆のアプローチだけど、同じところを目指してる。ハードルはめっちゃ高いんですよ。僕はハードル下げたい派なんだけど、ゴスペルって、キーを下げたり、楽な方に寄せてしまうとダメで、すべてがギリギリの所に設定されていて、その時に曲の素晴らしさが出るようになってる。だから、できるできないは別として、こちらもそのレベルまで提示しないといけないっていうのが、20年教えて分かってきたんですよ。歌ったときに普段、職場や家庭で叫ぶこともしない人が、スーツ着て叫んで、それで輝いて帰って行く。全然テナーとか声出でなくても、喜んで帰っていくから、こちらがどうこう言うことじゃないなあと。だから、様式とかじゃなくて、敬の編曲で歌った聖歌隊員が「私の歌を歌った」って思えば同じなんですよ。

E 方向は違っても同じところを目指してるわけだ。ところで讃美に限らず、礼拝そのものがそうだけど、同時に、様式の中にそれを感じる人たちもいるよね。

塩 それはそう。僕も敬を訪ねてヨークミンスター（イギリス・ヨークにある国教会の大聖堂）に行ったとき理屈じゃないと思った。何百年も前からそこに座る人がいて、石とか削れてるわけですよ。オルガンの低音もすごくて椅子も震える。建築家やステンドグラスの職人や、そこに召された人たちが、信者たちに向けて、ここに集いなさいという装置を作ってきた。

E そのために、すべてを総動員してるんだろうね。

塩 ただ人間は個性的だから、全員これでっていうわけには行かないですよ。それが僕が学んだことの一つで、若い頃は押しつけてたところがあったとけど、今はその人に合わせていこうと思う。そのためにあらゆる音楽を極めてきたんだなって。

最初に敬の教会に行ったとき、僕は教会の中で自分の個性が無くなるのを恐れてたんですよ。でも、神様は人を個性的に造られたから、人のキャラクターとかペルソナを大切にされて、だからこのペルソナで集まったらこうなるね、バンドだってこの4人だからこの音だね、っていうので楽しくやってる。

那 この前お会いしたキリスト教音楽院の先生が書かれていた礼拝におけるオルガン奏楽についての文章で、ヨーロッパとかドイツの教会音楽のスタイルを、その通り日本でやるべきとは言わないけども、もう少し日本の礼拝音楽を豊かにできないか、みたいなことを言っていて、ゴスペルとかとは全然違う流れだけど同じことを言っていて面白かった。

塩 そういうクラシックの人が、ポップミュージックやコンテンポラリーが分かるかって言うと全然別だよ。俺等がわかんないのと一緒で。

E お互い「僕が分からないからやらないで」じゃなくて「あなたが分かるんだったらやって」って形にできれば良いんだろうな。

那 僕は今の教会で初めて経験したんだけど、牧師は説教直後の讃美歌だけ選んで、他の讃美や頌栄は奏楽者に選ばせるの。もちろん聖書箇所を読んで、いろいろ考えて祈って選曲するのは大変なんだけど、そうやっ

て奏樂者が、礼拝について考え、讃美歌の歌詞も全節見て、迷った末にこれにしようって選んで弾くと、全然違うの。礼拝に主体的に参画することになるから。奏樂者にとっても良い訓練になる。

塩 青山学院では、火曜の夕方にコンテンポラリー礼拝があって、バンドで礼拝してるんですよ。今は50人ぐらいの学生の奉仕者がいるんですけど、教派教団の違う学生たちが、ただワークショップで讃美したいっていうことで一致してやってきたんです。メッセージ以外は全部、司会もリードもバンドも選曲も学生がやるんです。今年は、大学がワークショップリーダー養成講座を作ってくれて、そこは数人しか取れないのでオーディションして、受講したい理由を書かせたんですよ。そしたらみんな、自分の教会で奉仕者がいなくて夕の讃美礼拝が止まってるから自分が担って行きたいとか、聖歌隊をもっと幅を持って指導したいとか。一人でピアノ伴奏は出来てもバンドアンサンブルが出来ないとか、いろんな理由で集まってくるんです。僕も、彼らに礼拝の讃美を選んでもらって、選んだ理由、みことばと合っているか、曲調やキーやテンポはどうかを考えさせるんです。結局、ある程度責任を持たせて、自分で祈ってみことばと合わせて、迷いながら大丈夫かなっていう経験をしないと育たないですよ。これから日本の教会は、ワークショップリーダーどころか牧師も少なくなるんだから、若い子たちが自分たちで礼拝できるようにしないと。

E 牧師や献身者の減少がかなり現実的に見えてきている中で、教会が教会として立つには、やっぱり信徒ひとり一人がしっかり立って、みことばと大牧者に繋がっていくようにしないと。その意味でも、若い人たちから、自分たちで積極的に仕えていきたいという気持ちが出るのは素晴らしいですね。

塩 僕はそれで本当に感動して、嬉しくなったんですよ。背景の違う彼らが、神様への信仰だけでつながってやってる姿に。

那 大事ななのは、みんながコミットすることと、コーポレートするっていうことかな。

塩 お互い寛容に励ましたり、歩み寄ることもね。

(終)

『教会福音讃美歌』編集作業の道のり 連載第12回

福音讃美歌協会 讃美歌委員 中山信児

1. 目次と曲の順番について

讃美歌集の構造に当たるのは「目次」ですが、その大枠は2009年の時点で、ほぼ固まっていました。その後の作業を経て、2011年の秋には掲載曲もおおよそ出揃いました。次は、掲載曲を「目次」の項目毎に分類する作業になります。

多くの讃美歌は複数の節を持っていて、歌詞の内容は節を追うごとに展開していきます。つまり、多くの讃美歌において、一曲の歌詞の中に複数の内容が含まれているのです。例えば、ある讃美歌では、1節では「苦しみ」について、2節では「救い」について、3節では「希望」について歌われています。この場合、そのような讃美歌を「目次」のどの項目に置かかということが問題となります。中心となるテーマが明確な場合には、迷うことはありませんが、どの内容にも等しい比重が置かれているような場合には、判断が難しくなります。その場合には、「目次」の各項目の曲数や、そこに含まれる曲のキャラクター（年代、国、作者、ジャンルなど）のバランスを見ながら判断することになります。また、同じ作者の讃美歌がひとつの項目に集中しすぎないようにという配慮も必要となります。

次に、それぞれの「目次」項目の内での順序を決めます。すでに「目次」の各項目をどのように配列するかは決まっていますから、この作業は、事実上、収録曲の並び順を決める作業となり、それがそのまま『教会福音讃美歌』における讃美歌の番号になります。

項目の中での並べ方の基準は、それぞれの項目によって変わってきます。例えばイエス・キリストに関わ

る項目「待降」「降誕」「十字架」「復活」などでは、できるだけ福音書などに記載されている時系列に沿って並べます。「詩篇」や「聖書」という項目では、聖書の並び順がそのまま讃美歌の並び順になります。「詩篇」の項目の中では、1 篇を歌う讃美歌が最初で 150 篇を歌う讃美歌は最後になります。しかし、神学的あるいは信仰的な項目、例えば「信仰」「希望」「愛」「正義と平和」などでは、そのような機械的な並べ方は難しくなります。そのような場合に判断の基準としたのは、目次項目の内容を色濃く反映している順番に讃美歌を並べるということです。全節を通して一つの主題を歌っているような讃美歌は前の方に、節によって異なる意味内容が含まれているような讃美歌は、後の方に置かれることになります。

ここまでの作業で『教会福音讃美歌』の中身の一番大事な部分がほぼできました。これに「まえがき」「凡例」「目次」を巻頭に、「著作権情報」各種「索引」「奥付」を巻末に加え、「表紙」を付ければ讃美歌集としての体裁が整うことになります。

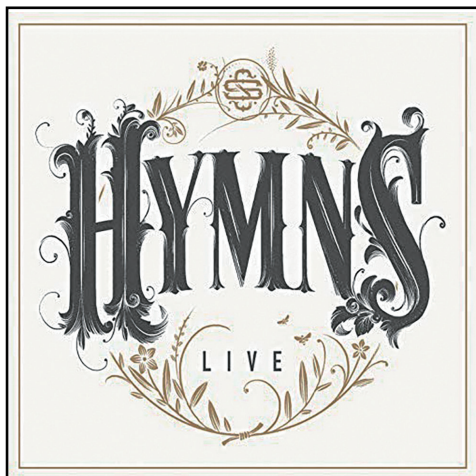
CD 紹介

『HYMNS LIVE』Shane & Shane

Shane & Shane は、テキサスを拠点とするワーシップ・バンドで、メンバーは 1976 年生まれの Shane Barnard（ボーカル、アコースティックギター）と 1974 年生まれの Shane Everett（ボーカル）の二人です。

彼らは、2018 年にアルバム『HYMNS Vol.1』をリリースしていますが、『HYMNS Vol.1』には、本作とほぼ同じレパートリーが、ほぼ同じアレンジで収録されています。

本作『HYMNS LIVE』は、2019 年 2 月にリリースされた彼らの最新作ですが、『HYMNS Vol.1』のライブバージョンと言うこともできるでしょう。彼らは、ここでライブという制約を安々と乗り越え、その力強い歌声と堅実な演奏技術で、古典的な讃美歌に新しい生命を吹き込むことに成功しました。



アルバムは、クリス・トムリンによる現代の讃美歌 "Is He Worthy" で幕を開けます。続いて "Tis so Sweet"（「主と主のことばに」391 番）、"How Great Thou Art"（「輝く日を仰ぐとき」21 番）、"Amazing Grace"（「恵みのひびきの」304 番）、"Holy, Holy, Holy"（「聖なる 聖なる 聖なるかな」1 番）、"There Is a Fountain"（「こひつじ主イエスの」322 番）といった古典的な讃美歌が、その魅力を現代によみがえらせる斬新なアレンジと力強いサウンドで演奏されます。

今の時代にも優れた讃美歌は多く生み出されていますが、時代を超えて歌い継がれてきた古典的な讃美歌には、確かで力強いメッセージと、時代の風雪を耐え抜いてきた存在の重みがあります。Shane & Shane の取り組みは、教会の財産である優れた讃美歌を、次の世代に確実に手渡していくための大切な取り組みであるといえるでしょう。

アルバムの後半は、彼らの盟友とも言えるキース・ゲティの作品が続き、最後は讃美歌のモダンクラシックとも言うべきゲティとタウネンドの名作 "In Christ Alone"（「私の望みは主イエスだけにある」359 番）で閉じられます。

アルバムの収録強は全 13 曲。1 時間 16 分に及ぶバンドと会衆の讃美は、新旧讃美歌のもつ豊かな魅力を私たちにも伝えてくれます。

（文中の讃美歌番号は、すべて『教会福音讃美歌』の番号です。）

＊ 2018 年度決算報告 ＊

2018 年 4 月～2019 年 3 月

■収入の部■

科 目	2018 年度予算	2018 年度実績
会員負担金	1,270,000	1,173,000
（正会員）	(750,000)	(750,000)
（準会員）	(120,000)	(120,000)
（賛助会員）	(400,000)	(303,000)
自由献金	600,000	326,770
積立金取り崩し	100,000	163,046
特別収入	150,000	170,601
その他	0	2
当年度収入合計（A）	2,120,000	1,833,419
前年度繰越金	516,985	516,985
収入合計（B）	2,636,985	2,350,404

■支出の部■

科 目	2018 年度予算	2018 年度実績
理事会費	95,000	100,150
委員会費	300,000	322,315
人件費	390,000	390,000
事務費	178,000	194,737
ジャーナル発行費	400,000	399,726
カンファレンス開催費	215,000	77,065
総会開催費	20,000	22,139
JEA 関係費	100,000	87,112
経常支出合計	1,698,000	1,593,244
特別支出 積立金	100,000	100,000
積立金取り崩し支出	100,000	163,046
予備費	222,000	20,681
当年度支出合計（C）	2,120,000	1,693,244
当年度収支差額（A）-（C）	0	140,175
繰越額／残高（B）-（C）	516,985	657,160

●賛助会費納入者・献金者一覧（2018 年 4 月～2019 年 3 月）

個人：安西仁美、石川岩夫、稲垣博史・緋紗子、大賀勝範、大滝忠子、金谷郁子、北田直人、倉富隆子、小林義正・由貴子、齋藤真木子、篠田安子、菅原早樹、高橋和江、田村勉、辻喜男、寺村秀嗣、中川啓子、中山信児、南場安正、林慎一郎・頼子、樋口邦彦、福田崇・愛子、藤本侃也、本間昭弘、三森美智代、山村雅彦、横倉知恵、匿名（28 件）

教会：泉キリスト教会、インマヌエル王子キリスト教会、インマヌエル板橋キリスト教会、インマヌエル松戸キリスト教会、江戸川台教会、上作延キリスト教会、キリスト教朝顔教会、グレイスコミュニティー、下北沢聖書教会、菅生キリスト教会、世田谷中央教会、千歳烏山光の子聖書教会、都賀キリスト教会、橋本キリスト教会、馬天キリスト教会、浜田山キリスト教会、前橋キリスト教会、武蔵台キリスト福音教会、結城福音キリスト教会（19 件）

お名前の掲載を希望されない場合は、通信欄に匿名希望とお書きくださるか、メール（info@jeacs.org）で、その旨をお知らせください。

夏期献金のお願い と 賛助会員のお誘い —豊かな礼拝と讃美のために—

福音讃美歌協会 (JEACS) は「キリスト教会における会衆讃美の振興に寄与すること」を目的として 2005 年に発足した聖書的福音信仰に立つ諸教団・教派・団体の協力機関です。

2012 年には讃美歌集『教会福音讃美歌』を発行し、その後も、CD『教会福音讃美歌』全 5 巻をリリース、
『教会福音讃美歌 伴奏譜』、小歌集『あたらしい歌 2』を出版してきました。

働き

現在は、聖歌隊で用いていただけるような「合唱譜」の出版を 2020 年秋に計画しています。また、ホームページ (<http://jeacs.org/>) の「情報ページ」では、歌詞やタイトル、他の讃美歌集の番号でも讃美歌を検索できる機能を提供しています。曲や作者の情報も順次掲載していますので、選曲や学びにご活用ください。また、讃美歌利用の問い合わせに迅速に対応できるよう、諸教団・教派と協同で讃美歌著作権データベースの構築にも取り組んでいます。

皆様のお祈りとご支援をいただき、ここまで働きを進めることができましたことを心から感謝いたしますとともに、皆様の上に主からの豊かな祝福をお祈りいたします。

感謝!

お願い

- この働きがさらに進められ用いられるよう、**お祈りとご支援**をお願いいたします。
- この時期、**夏期献金**と**賛助会員加入**についてご検討いただけましたら感謝です。

■福音讃美歌協会◆会員募集◆

◆「賛助会員」は、福音讃美歌協会の趣旨に賛同し、支援してくださる教会や個人の会員です。

- ・賛助会員のお申し込みは、まず福音讃美歌協会まで入会申込書をご請求ください。
- ・賛助会員の年会費は、一口 5,000 円で、個人は一口から、教会は二口からとなります。

◇「正会員」は、福音讃美歌協会の働きを支え担う教会、教団・教派等の会員です。

◇「準会員」は、福音讃美歌協会の働きを支え担う超教派団体、グループの会員です。

- ・正会員、準会員の詳細については、福音讃美歌協会まで直接お問い合わせください。

福音讃美歌協会 (JEACS) 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-1 OCCビル 602号室
Tel.03-5341-6920 Fax.03-5341-6921 (いのちのことば社出版事業部内)
ホームページ <http://jeacs.org/> メール info@jeacs.org

◆郵便振替口座◆

番号 00220-1-95127

名称 福音讃美歌協会

◆郵便貯金口座◆

番号 10500-82654721

名称 福音讃美歌協会

◆みずほ銀行 ユーカリが丘支店◆

普通預金 番号 1604668

名称 福音讃美歌協会

From Editor

この 6 月に、都内の教会で日本讃美歌学会・関東支部の『第二回 小さな集い』が持たれました。講師はゴスペルシンガーであり研究者でもある國友淑弘さんで、「日本における黒人宗教音楽 (黒人霊歌・ゴスペル) 受容の歴史について」というテーマでお話をしてくださいました。黒人霊歌やゴスペルの歴史についての研究は少なくありませんが、日本における受容に焦点を当てた研究は、とてもユニークで有意義なものでした。アメリカの黒人たちが紡いできた黒人宗教音楽は、今も世界中で歌われ、聴かれています。日本の教会でも、多くの先達の努力と取り組みによって、広く浸透するようになってきました。しかし、その「本質」を、私たちはどれだけ深く受けとめることができているでしょうか。

現代の日本は、グローバル化の波にさらされ、格差拡大や少子高齢化という問題にも直面しています。日本の教会は、それらの問題に加えて、世俗化や献身者の減少といった課題とも向き合おうとしています。塩谷さんや國友さんは、そのような現場の最先端で、シンガーとして、また指導者として活動されています。厳しい差別と抑圧の中で生み出された黒人宗教音楽が、今、この国の教会で歌われることの意義は、決して小さくはないと思うのです。

本号表紙のカバー写真はスコット・ショウ先生の「Car Art」です。感謝いたします。